

## 新年ご挨拶

限りない愛と赦しを賜り、一瞬も滞ることのない主神の創造の営みにお使いいただいている中で、私どもは輝かしい年の始めを迎えることができました。

ここに、感謝と希望と決意をもって、全世界の信徒の皆様を始め、全人類とその父母先祖の方々と共に、万物と共に、主神と、主神と共におられる明主様に謹んで新年のご挨拶をさせていただきます。

新年あけましておめでとうございます。

誠に畏れ多いことではありますが、私ども一人ひとりの中には、明主様が「宇宙意識」と仰せになった、すべての源なる意識、すなわち、主神がおられます。

主神のみ旨は、ご自身の子をお生みになることであります。

そのために、主神は、すべての創造をお始めになるにあたって、あらかじめ天国を用意され、その天国において、万物の霊と共に、神の子となるべき人間の霊、すなわち、メシアと名付けられた分<sup>わけ</sup>霊<sup>たま</sup>をお生みになりました。

主神は、このメシアの御名にあるすべての分霊を通して、天地万物一切を創造されました。

ですから、万物と私ども人間とは、創造の始めから、そして今も、このメシアの御名に結ばれた、どこまでも一体の存在であります。

私どもの感覚器官を始めとする全身細胞を含め、万物は悉く、主神の創造のみ旨に従って、私ども人間をご自身の子とするという主神の御用にお仕えし、お働きくださっています。

万物なくしては、私どもは、主神の子として新しく生まれるという、主神がお立てになった目的を果たすことはできません。

私は、新しい年を迎えるにあたって、私自身が万物と一体の存在としてお使いいただいていることを認め、確かに主神のみ旨が万物を通して私自身にまでも到達したことを、すべてのものと共に主神にご奉告させていただきました。

主神は、永遠の命であられ、生き生きと生きておられます。

私どもの中で、天地万物一切の中で、生き生きと生きて、活動しておられます。

私どもは、年を取るにつれて、老いて衰えていく体だけを持たされている

のではありません。

私どもは、死を免れ得ない体ではなく、主神の魂であり、命であり、意識である「霊の体」を持たされているのです。

生き生きと生きておられ、大光明燦然と輝く「霊の体」を持たされているのです。

そして、この「霊の体」こそ、私どもの本体であり、実体であり、本当の“わたし、であります。

しかしながら、私は、自我の“わたし、しか認めることができませんでした。「霊の体」である本当の“わたし、の存在を忘れておりました。

自我の“わたし、が天国に立ち返って、本当の“わたし、と一つにならせていただき、主神の子として新しく生まれ、永遠の命を獲得するために養い育てていただいていることを忘れておりました。

しかしながら、主神は、この「霊の体」をないがしろにし、死んだもののようにになっていた私どもを赦してくださり、生きたものとしてくださいました。

主神は今、メシアの御名にあって、万物を甦らせ、万物と一体である私どもを赦し、救い、生きたものとして天国に迎え入れ、ご自身の子として永遠の命を獲得させるために、惜しみない努力をしてくださっています。

主神は、永遠の命を獲得された明主様を通して、私どもにも永遠の命を獲得させるべく、今も養い育ててくださっています。

明主様が「地上天国建設」や「人類救済」を呼びかけてくださったのも、主神が明主様を通して、地上にいる私どもの思いを少しでも天国に向けさせ、その天国に立ち返って、<sup>まこと</sup>真の親を知るといふ、全人類にとっての本当の救いに目覚めさせようとしておられたからではないでしょうか。

明主様は、お歌に、「あな嬉し神の御光照り映えて三千世界の闇ぞ消えなむ」とお詠みになりました。

主神の御光は、すべてを隈なく照らし、その光は私ども一人ひとりの心の中の闇にまで到達しております。

その光は、すべてを赦し、すべてを救う光であります。

私どもはよく、“光に照らし出された、と申しますが、それは、主神が、私どもが考える良いことも悪いことも、善悪を越えて、すべてを赦し、救う光によってご覧くださっていると受けとめさせていただいたほうがよいと思います。

主神は、ご自身の光によってご覧になったすべてを、赦し、救い、ご自身

の御手に収めてくださっています。

ですから、私どもが良いことでも悪いことでも、何かに気づき、思わせていただいたならば、それがどんなに取るに足りないことであっても、“ありがとうございます。あなたがご覧くださっていたのですね、と主神に申し上げ、明主様と共にあるメシアの御名にあって、赦され、救われたものとして、すべてを主神に委ねさせていただきます。み旨の御用にお使いくいただきますように、と自分自身を主神に捧げさせていただくことが大切であると思います。

また、私どもが物事や相手のことが気になったり、疑問に思ったりするということは、主神が私どもをお使いになって、私どもと交流してくださっている最中なのですから、そして、狭く、片寄った見方、考え方に囚われていた私どもを解放して下さろうとしているのですから、“このことをあなたはどのようにご覧になっているのですか、とお伺いし、例えば、“わたしの目ではなく、あなたの目として定め、わたしの耳ではなく、あなたの耳として定め、わたしの思いではなく、あなたの思いとして定めて、お仕えさせていただきます、と申し上げることが、主神に対する礼儀なのではないでしょうか。

そして、すべてを成し遂げておられる主神を心から信頼申し上げ、“み旨が成し遂げられますよう、委ねさせていただきます、と申し上げる必要があるのではないのでしょうか。

このようにして、誠に畏れ多くも、主神が明主様を通して私どもに対し、どんな時でも交流し、働きかけてくださっている、その限りない愛と赦しを忘れないようにしなければと思っております。

神様は、私どもの命の親であり、私ども一人ひとりにとって最も身近で大切な、そして、最も信頼すべき方であられます。

私ども人類は、長い間、その神様を知ることなく生きてまいりました。

自分は神様を知っている、神様を信じていると言いながら、自分たち人間にとって都合のよい神様を思い描き、神様のみ心を都合よく理解し、神様の御用にお仕えしていると自負してまいりました。

徳や権威はすべて神様のものであるにも拘らず、神様への感謝も、他人への思いやりも、自分の徳、自分の権威を高めるための行いとし、そうした自分の傲慢さに気づかないまま生きてまいりました。

そうした私どもの心のすべてを、神様は、大きな愛をもってご覧になって、私どものすべてを赦してくださり、明主様を通して、私どもの命の親である、

本当の神様を思い出させてくださいました。神の子たるメシアという御名を思い出させてくださいました。

明主様がお歌に、「行き戻りならぬ闇路を光明に照らして誘<sup>いざな</sup>ふ我救ひかな」とお詠みになりましたように、神様は、明主様を通して、闇路をさまようように、人間の善悪の尺度に囚われ、長い眠りの中にいた私どもに光を当ててください、目覚めさせ、救い出してくださいました。

このことが赦しでなくてなんでありましょう。救いでなくてなんでありましょう。

私どもは、明主様と共にあるメシアの御名があればこそ、赦され、救われたものとして、全く新しい信仰に目覚め、天国に立ち返らせていただき、主神の新しく始まる創造のみ業にお仕えさせていただきます。

そして、万物を甦らせ、全人類をご自身の子とするというみ旨を私ども一人ひとりの中で成し遂げておられる主神を、父母先祖の方々と共に、また、これから地上に遣わされる方々と共に、そして、天地万物一切と共に、心からお讃えさせていただきます。

ありがとうございました。

以 上